



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第13号 平成24年6月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

きれいな水循環フォーラム の開催

去る平成24年2月6日、青森国際ホテルを会場に「きれいな水循環フォーラム」が開催され、農林漁業者や食品製造業者、消費者、行政などの関係者約200名が参加しました。

本フォーラムは、青森県が全国に先駆けて取り組んできた「環境公共」を通じて、きれいな水を育みながら地域資源を活用した付加価値の高い商品づくりの取組を推進し、「環境」と「食料」の時代のトップランナーを目指すことを目的に開催されました。

知事が 環境公共学会 をPR

開会に先立ち、三村知事より食料供給県として持続可能な青森県づくりを実現するには「水」の役割が極めて重要であり、そのためには健全な水循環システムの再生・保全が必要であるとの説明がありました。

また、青森ヒバでできた「環境公共学会」の会員証を手に、「環境公共」の取組に共感した仲間たちからなる同会の取組をPRしました。



「環境公共学会」を紹介する三村知事

世永会長がパネルディスカッションに参加

知事からのあいさつに引き続き、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、NPO法人GROSSの福田専務理事をコーディネーターに、基調講演で講師として参加した(株)四万十ドラマの畦地代表取締役をアドバイザーに迎えるとともに、「環境公共学会」の世永会長をはじめとした4名がパネリストとして参加しました。



パネルディスカッションの様子



「環境公共学会」の世永会長

意見交換の中で、世永会長からは“きれいな水”を将来にわたって保全していくには、次世代を担う子どもたちに「水」の大切さを理解してもらうことが重要であり、それに向けた具体的な取組内容について紹介がありました。

最後に、畦地氏からパネリストの方々が連携し、活動の輪を広げることで更なる取組強化が期待できるのではとのアドバイスをいただき、盛況裏に本フォーラムは閉会しました。

■「環境公共」事例紹介

おおはたがわ

大畑川地区（むつ市）～ 健全な水循環の再生に向けた農・林・水の連携強化 ～

1 地区の概要

むつ市の北西部を流れる大畑川は、ヤマメやイワナ、アユなどの多種多様な魚類が豊富に生息する自然豊かな川で、地域住民の憩いの場となっています。一方、河川中流にある大畑頭首工に付帯する大畑魚道や、その上流にある薬研魚道では、施設の老朽化等により魚類の遡上が妨げられ、近年、大畑川上流での魚影が減少していました。

そこで、平成22年2月、大畑土地改良区の理事長を会長として、農・林・水の各関係者から構成された「大畑地区環境公共推進協議会」が設立され、平成22年度から大畑魚道の改修（県営大畑地区農業水利施設魚道整備促進事業：H22～25）に取り組むこととなりました。



現在の大畑頭首工（改修前）

2 活動内容



検討委員会による遡上調査

大畑川では、これまで上流で本協議会の構成員である林業者と漁業者の協働による水源林の保全活動や、下流では地域資源のホタテ貝殻を利用した魚礁の設置（広域漁場整備事業：H20～22）といった取組が行われてきたところですが、今回の魚道整備では、そうした取組と連携しながら官民一体となって“流域全体での生態系保全”と“健全な水循環の再生”を目標に進めていくこととしています。



検討委員会で魚道の設計内容を検討

大畑魚道の整備に当たり、本協議会では、平成23年1月に大学教授などの専門家を加えた「大畑川魚道検討委員会」を設立して魚類の遡上調査を行い、魚道の形式や建設コスト、維持管理方法を検討したところ、全断面式魚道の新設と既設魚道の改修を行うこととなりました。

一方、大畑魚道の上流にある薬研魚道では、平成23年11月に、本協議会が直営でコンクリートの継ぎ目を補修しました。

3 今後の取組

大畑魚道は、平成25年3月の完成を目指して、今秋から工事に着手する予定としており、完成後は魚類のモニタリング調査を行うこととしています。

また、薬研魚道についても改修等を検討しているところであり、今後も農林漁業者が連携して“水循環の再生・保全”に向けた取組を進めていくこととしています。



協議会が直営施工で魚道の目地を補修

「環境公共」HP <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>

